

陽春の候、地域の先生方にはますますご清栄のことと存じます。

日頃より患者さんのご紹介・逆紹介において大変お世話になっており、厚く御礼申し上げます。

今月は血液内科の紹介をさせていただきます。

診療科紹介「血液内科」



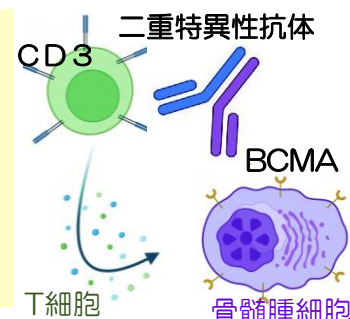
造血器悪性腫瘍に対する二重特異性抗体療法のご紹介

近年、造血器悪性腫瘍（血液がん）に対する新たな治療選択肢として、二重特異性抗体（BsAb: Bispecific Antibody）が注目されています。当院でも、二重特異性抗体療法を積極的に導入し、難治性・再発性の血液がん患者さんに対する治療を行っております。

本稿では、二重特異性抗体の基本的な作用機序、当院で実施可能な治療についてご案内申し上げます。

1. 二重特異性抗体とは？

二重特異性抗体は、1つの抗体内に2つの異なる抗原結合部位を持つことで、がん細胞と免疫細胞を同時に結合し（図）、免疫の力でがん細胞を破壊する特性を持っています。通常の抗がん化学療法後に再発した、または難治性となった白血病やリンパ腫、骨髄腫患者さんに対して新たな治療選択肢となっています。



2. 当院で導入している主な二重特異性抗体治療

現在、当院では以下の二重特異性抗体を用いた治療を提供しております。

① Epcoritamab（エプコリタマブ）

- ・ 標的分子: CD20 (B細胞) × CD3 (T細胞)
- ・ 適応疾患: 再発・難治性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫 (DLBCL) 濾胞性リンパ腫など

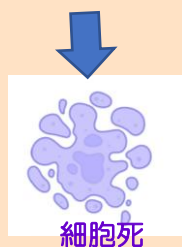
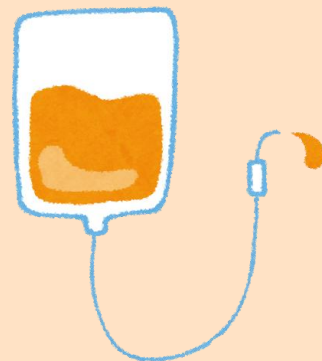
- ・ 皮下注射製剤

② Elranatamab（エルラナタマブ）

- ・ 標的分子: BCMA (B細胞成熟抗原) × CD3 (T細胞)
- ・ 適応疾患: 再発・難治性の多発性骨髄腫
- ・ 皮下注射製剤

③ Blinatumomab（ブリナツモマブ）

- ・ 標的分子: CD19 (B細胞) × CD3 (T細胞)
- ・ 適応疾患: 再発・難治性の急性リンパ性白血病 (ALL)
- ・ 特徴: 持続静注で投与し、長期管理が必要



これらの治療は、従来の化学療法や造血幹細胞移植が奏功しなかった、または化学療法や造血幹細胞移植後に再発した患者さんに対する新たな選択肢として期待されています。

3. 二重特異性抗体の特徴と副作用

- 特徴
- ・既存の治療が無効だった患者さんに対する新たな治療選択肢。
 - ・従来の抗がん剤と異なり、血液毒性が軽い。
 - ・エプコリタマブ、エルラナタマブは外来維持療法が可能

△ 注意が必要な副作用

- ・サイトカイン放出症候群(CRS) (発熱、低血圧、呼吸困難など)
- ・免疫エフェクター細胞関連神経毒性症候群(ICANS) (意識障害、けいれんなど)

これらの副作用は、特に投与初期に発生しやすいため、適切なモニタリングと管理が必要です。
当院では、看護師、薬剤師など多職種と協働し、投与管理に関するプロトコルを作成した上で安全な治療環境を整えております。



ご紹介のお願い



血液内科領域の進歩は目覚ましく、新たな診断技術や治療薬が次々に臨床応用されてきています。当院では、最新の医療情報をもとに、患者様一人ひとりに適切な医療を提供しています。血液疾患が疑われる患者様がおられましたら、当院地域連携室および血液内科へご連絡ください。



院長補佐
患者サポートセンター長
朝倉昇司

副院長
矢野朋文

【お問い合わせ先】

住 所：〒702-8055 岡山市南区築港緑町1丁目10番25号
T E L：(代表) 086-262-0131 FAX：086-263-2587
E-mail：kansapo@okayamah.johas.go.jp
担 当：岡山労災病院 地域連携室

